



私の色彩History

このコーナーでは、講師養成講座を修了された方々のその後の活躍を紹介しています。

色に精通したデザイナー、デザインに詳しいカラーの専門家として幅広く活動しながら、プロデューサーとして企業活動にも参画。講師や学校担任として色の魅力を広げてくれる後進も育成する。



佐藤 万葉さん
Sato Kazuha

色彩検定協会認定講師
第13期生
グラフィックデザイナー
カラーイメージコンサルタント
企業アドバイザー

色彩学を学ぶと感性がなくなる
という噂はやっぱり嘘だった

私が「色彩学と出会ったのは、神戸の大学に入学してからです。しかし、それは決していいカタチの出会いではありませんでした。当時、学生の間では「色彩学を学ぶと色に対する感性がなくなってしまう」という、根も葉もない噂が広まっており、私も噂に影響されて真摯に授業を受けませんでした。結局、色に対する知識が浅いまま卒業。京都のデザイン会社に就職したものの、すぐ、真面目に講義を受けなかったことを後悔することになりました。デザイナーは、クライアントの要望や目的・イメージを、クライアントの代わり形にするのが仕事です。求められるのは「もっとも効果的なデザインと配色」であり、「私の好きなデザインと配色」ではありません。私の配色の嗜好が多少偏っていることもあり、改めて色合わせの難しさ、大切さに直面することになりました。

私の感じた色の素晴らしさを
もっと多くの人に知ってほしい

そんなときに知ったのが色彩検定でした。仕事の傍ら勉強を始めてみると、これまで知らなかった色の奥深さや面白さに夢中になりました。図書館に通いつめ、目標にしていた1級に合格する頃には、私の感じた色の素晴らしさを、もっと多くの人に知ってほしいと思うようになっていました。

とはいえ、人に何かを伝えるためには、わかりやすく伝えるスキルが必要ですし、より豊富で幅広い知識がなくてはなりません。そこで、講師養成講座を受講することにしたのですが、講師を育成する講座だけあって、内容は非常にレベルが高く、いかに自分は未熟であるかを思い知らされました。この講座で学び、身につけたことが、色のすばらしさを伝える活動に役立っており、なにより、自信を持って仕事ができるようになりました。



色の世界の魅力を広めてくれる人を
増やしたいから学校で後進を育成

現在は色とデザインを中心に、様々なお仕事を頂いています。デザインの分野では、色に精通したデザイナーとして、パッケージ、広告、HPといったデザイン業務を。色の分野では、デザインに詳しいカラーの専門家として、企業や学校での講演会、カルチャー講師、学校の担任をしています。

いろいろご依頼頂く仕事の中で特に色彩の教育に直接携われる学校の担任という仕事に注目しています。なぜなら、多くの人に色の世界を知ってもらうには、私一人が頑張るのではなく、私と同じように広めてくれる人を増やすのが一番の近道と考えたからです。ただ、そこには課題もあります。現在、働く社会人(39歳以下)を対象とした市立の生涯学習施設で担任しているのですが、夜間の教室なので、仕事の都合で遅れたり休んだりしてしまうと、次第に授業についていくのが難しくなり、当初の学びたいという気持ちが少しずつ薄れてしまっ方がいらっしやる事です。

試験合格を目標に置いてはいますが、学生たちには、例えば不合格でも、色に対する思いは変わって欲しくありません。卒業の日まで、色に興味を持ち続けてもらえるように授業には色々な工夫をしています。例えば、光の授業では万華鏡や光の箱を作成したり、色の象徴の授業では記憶だけで世界の国旗の色塗りをしたりと、年間を通して様々な体験学習を盛り込んでいます。体験することで楽しい時間を共有することができれば、学生同士のコミュニケーションも円滑になり、授業内容への関心も高まり、それが年間の出席率の高さに表れています。



▲三原色の実技授業風景。
年間を通して様々な体験学習を盛り込んでいる。

毎年、学生たちは見たことのない配色の国旗を作成してくれませんが、皆で笑いながら答え合わせをすることでお互い仲良くなり、誰かが休んだ日はノートを見せ合っってフォローしたり、自主的な勉強会をしたりしてくれています。これからもそうした盛り上がりのある教室になるよう、努力や工夫を重ねていくつもりです。



プロデューサー、アドバイザーとして
自治体や企業の商品企画などにも参画

最近はその外にも仕事の領域が広がりをみせています。デザインや授業で使用する資料の著作権、知的財産権について勉強し、資格を取得したことから法テラスの仕事をするようになりました。また、カラーセラピーから得た傾聴スキルを買われて公的機関の相談員としても活動しています。さらに、近年増えつつあるのが、プロデューサー、アドバイザーとしての仕事です。大分県や関東の食品加工会社、ホテル、販売企業と年間契約を結んで、コンサルティングを行っています。その職務の中のディスプレイや店舗デザイン、商品デザインで役立つのが、やはり色の知識です。ただ感覚で助言するのではなく、専門家による裏付けのある提案は、クライアントを安心させることができ、同業他社との差別化にも役立っています。

こうして振り返ってみると、私が色彩検定の資格を取得してから、もう10年近くが経過していることに気づきました。今後も、真剣に色と向き合い始めたときの感動を忘れることなく、色を生かせる場を増やしながらか、もっと色の魅力を広めていく活動を続けていきたいと思っています。



▲企業のアドバイザー・商品プロデューサーとして担当社員の方とブランドコンセプトの構築や商品開発を行った(写真はジャムの例)。



▲東京ビックサイトで行われたバイヤー商談会ブースでは、コーポレートカラーや商品カラー、わかりやすさなどの観点からアドバイスしました。



▲パーソナルカラー診断やビジネスで印象をよくするファッションカラーをテーマにした講演も実施しました。

2016年 第23回 講師養成講座が始まりました!

1級合格者を対象として実施している講師養成講座も23回目を迎えました。今年も大阪・東京の2会場で4月～9月の半年間、開講しています。マーケティングリサーチやプレゼンテーション、模擬講義など課題も盛りだくさんな内容となっています。受講生の皆さん、がんばってください。